岩盤ボーリング柱状図

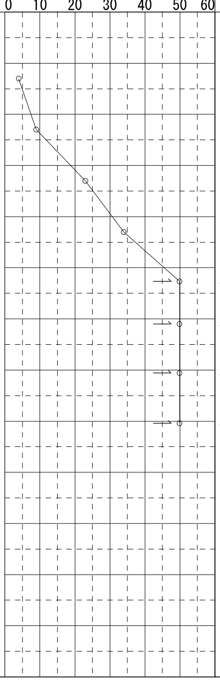
調　　査　　名	災害関連緊急砂防事業に伴う測量・設計業務委託（東両谷川）
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	砂防　砂防

ボーリング名	Bor.No.1	調査位置	No.1(R-48.50)	北　緯	34°14′08.0884″
発注機関	広島県西部建設事務所呉支所	調査期間	平成30年 1月11日～平成30年 1月12日	東　経	132°38′11.9148″
調査業者名		主任技師		現場代理人 / コア鑑定者 / ボーリング責任者	
孔口標高	DL 64.19m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270 西 90° 東 180° 南
総削孔長	8.00m	地盤勾配	6° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 東邦D1-B48型 / エンジン ヤンマーNFD-13EK / ポンプ 東邦製BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	記事
0～3	61.19	3.00	S-G	礫混じり砂	暗～茶褐							(100) (100) (100)	主に砂から構成される崖錐堆積物である。花崗閃緑岩を起源とする礫が混在する（最大φ5cm）。 GL-1.0m以浅ではφ5cm程度，GL-1.0m以深ではφ2～5mm程度の礫分が多い。 GL-1.38m付近まで草根が混入する。
3～8	56.19	8.00	Gd	花崗閃緑岩	黄褐灰	w4 (3～5m) w3 (5～8m)	h1 (3～5.65m) h3 (5.65～7.5m) h1 (7.5～8m)	E (3～4m) D (4～5m) C (5～8m)	Ⅵ (3～5m) Ⅴ (5～8m)	d	D (3～4m) D (4～5m) D (5～8m)	0[0](100) 0[0](100) 0[0](100) 0[0](100) 0[0](100)	風化した花崗閃緑岩である。白濁した長石が目立つ。深度が増すごとに硬質になる傾向がある。 GL-3.00～4.00m DL級 GL-4.00～5.00m DM級 GL-5.00m以深　DH級 GL-5.0m以深，比較的硬質となり，45°程度の亀裂と，ほぼ水平方向に発達する脈が確認される。 GL-5.65～7.50m　粘土脈周辺が変質・変色し，軟質な部分がある。

孔内水位／測定月日：1/12 2.40　1/14 4.60

標準貫入試験



N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
4	1.15～1.45	4/300		
9	2.15～2.45	9/300		
23	3.15～3.45	23/300		
34	4.15～4.45	34/300		
50以上	5.15～5.38	50/230	230	
50以上	6.05～6.15	50/100	100	
50以上	7.00～7.12	50/120	120	
50以上	8.00～8.08	50/80	80	

原位置試験：—　室内試験：—

削孔状況

削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
1/11 (0～3m)	43	66／ケーシング	S/M	100	65	0	W1/0	0
1/12 (3～8m)	71	66	D/M, D/M	50	100	0	W2/20	20